

## 関連文化財群2：先人の知恵に学ぶ。みかん農家の人たちが残した歴史文化 —段々畑とみかん小屋—

### 【概要】

本市は、平地が少ないことから、山の傾斜地に石を築き上げて造られた段々畑のみかん園や地元建築素材を使って建てられたみかん小屋は、みかん農家の人たちの暮らしの中で生み出された津久見ならではの農業遺産であり、津久見の原風景として残しておきたい景観の一つである。

本市の柑橘栽培の歴史は古く、中世までの様子は口碑や伝承の域を出ない。江戸時代になると、臼杵藩では成立当初から朝廷に献上していたことが知られ、領内でも献上品となるほどのみかんが栽培されていたものと思われ、その中心が臼杵藩領下の青江地域であった。

本市のみかん栽培は、今から1,300年余り前の天平12年（740）、仁藤仁左衛門という人が松川（上青江畑）で野生の橘に目をつけて栽培研究し、小みかんを植えたことに始まるとしている。そして、保元2年（1157）、又四郎という人が松川から蔵富（字尾崎）に持ってきて植えたのが、尾崎小ミカン先祖木（国指定天然記念物）と言われ、樹齢860年を超え、わが国の柑橘類の最高齢樹として、津久見みかんのシンボルともなっている。

江戸時代を通じて小みかんの栽培が主であったが、津久見みかんとして有名になったのは温州や早生温州みかんの方で、江戸時代の終わりごろから明治の初めにかけて、暫時転換が図られ、市内全域に広がっていった。

本市は、もともと温暖な気候に加え、水はけのよい土壌はみかん栽培の適地として、味の良いこと、皮が薄く食べやすいこと、生産量の多いことで知られた。市内での主産地は津久見・青江地域であったが、半島と内陸の耕地は、ほとんどがみかん園で占められていた。平野の少ない市域では、みかんは山野や原野を開墾した段々畑に植えられるのが普通であった。地区によっては「オノヂ（平地）には植えるな」というきまりがあったという。しかし、大正から昭和にかけて商品価値が見直されると、そうしたきまりもなくなった。

本市出身の人たちは葺山師として全国各地に出稼ぎに出かけ、経済力をつけ、本市に帰り、みかん栽培を行ったという。津久見みかんの隆盛の背景にこうした人たちの活躍があったといわれ、彦ノ内等では、平地の畑や水田までみかん畑にしていった。

みかん栽培が本格化したのは明治の終わりごろからで、特に、明治41年（1908）の柑橘栽培拡張10か年計画と、大正5年（1916）の日豊線開通、この時期続いた鰯の豊漁によって魚肥の多投等の好条件が重なり栽培面積が急増していった。

津久見川沿い、青江川沿い、千怒川沿い、四浦半島・長目半島の山の斜面には、15度もしくはそれ以上もある急傾斜地に石を積み上げ、階段状に築き上げられた段々畑のみかん園が残っている。急傾斜地に作られた段々畑のみかん園は平坦地のみかん園よりも生産費が高くなるが、排水が良好で日照も良いため、糖分が高く風味が良いとされてきた。段々畑を作るのに組まれた石垣は、土砂が流れることを防ぐだけでなく、雨が降った後、地面にしみ込んだ水を排出し、蒸発させた。また石垣が太陽の光を反射してみかんの木に下から光が当たるなどの役割を果たしてきた。津久見みかんの味の良さは、こうした急傾斜地を利用した段々畑に植えた農家の人たちの知

恵が活かされていた。

また、千怒地区では、急傾斜地を利用した段々畑の一角に、みかん畑と一体化した津久見の伝統素材である石灰石や三和土を使ったみかん小屋（蔵）が残っており、長目地区には、灰石積みのみかん小屋が残っている。

昔から、みかんを貯蔵（囲う）する方法の一つとして、住宅の庭先や、段々畑の斜面等を利用してみかん小屋や倉庫を建てた。特に、冷蔵施設のない時代は秋11月下旬から収穫した温州みかんを囲って、翌年3～4月に出荷すると高値で売れたので、他の生産地と競合しないように貯蔵して出荷時期を調整するために建てられたのである。

特に、平地が少ない本市では、山の傾斜地に石を築き上げて造られた段々畑や地元の建築素材である三和土等を使って建てられたみかん小屋は、農家の人たちの暮らしの中で生み出されていった津久見ならではの農業遺産というべきものでもあり、津久見の原風景として残しておきたい景観である。



仁藤仁左衛門之墓  
(畑松川)



尾崎小ミカン先祖木（上青江蔵富）



蜜柑元祖樹之碑（岩屋町）



千怒新地一帯の段々畑の  
みかん園とみかん小屋



千怒川流域の段々畑の  
みかん園



中ノ内の段々畑のみかん園と  
その一角に建つみかん蔵



畑地区の尾根と急斜面に  
作られたみかん園



道尾から平岩地区の  
傾斜地に作られたみかん園



長泉寺のタチバナ  
(上宮本町)



長目浦代地区に残る  
灰石積みのみかん小屋



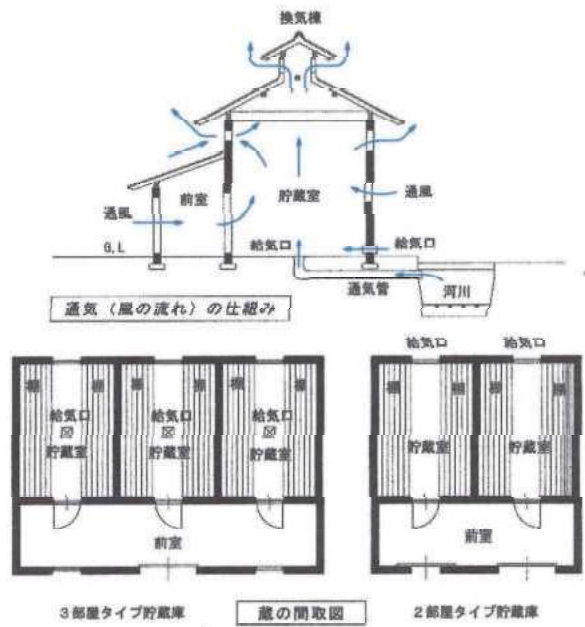
長目の長目地区に残る  
灰石積みのみかん小屋



長目伊崎地区に残る  
灰石積みのみかん小屋



長目楠屋地区に残る  
灰石積みのみかん小屋



灰石づくりのみかん小屋 (蔵) の間取り図  
(公益社団法人 大分県建築士会 津久見支部 作成)

構成文化財一覧

番号	名称	類型	指定等
1	長目伊崎地区に残る灰石積みのみかん小屋	有形文化財（建造物）	未指定
2	長目楠屋地区に残る灰石積みのみかん小屋	有形文化財（建造物）	未指定
3	仁藤仁左衛門之墓	有形文化財（石造物）	未指定
4	蜜柑元祖樹之碑	有形文化財（石造物）	未指定
5	柑橋記念碑	有形文化財（石造物）	未指定
6	宮崎勝蔵翁之碑	有形文化財（石造物）	未指定
7	柑橋試験場新築記念碑	有形文化財（石造物）	未指定
8	源兵衛翁の碑	有形文化財（石造物）	未指定
9	野口雨情歌碑	有形文化財（石造物）	未指定
10	長泉寺のタチバナ	記念物（動物・植物・地質鉱物）	未指定
11	尾崎小ミカン先祖木	記念物（動物・植物・地質鉱物）	国指定
12	中ノ内の段々畑のみかん園とその一角に建つみかん蔵	文化的景観	未指定
13	千怒新地一帯の段々畑のみかん園とみかん小屋	文化的景観	未指定
14	千怒川流域の段々畑のみかん園	文化的景観	未指定
15	津久見川流域の段々畑のみかん園	文化的景観	未指定
16	西ノ内川流域の段々畑のみかん園	文化的景観	未指定
17	彦ノ内川流域の段々畑のみかん園	文化的景観	未指定
18	畑地区の尾根と急斜面に作られたみかん園	文化的景観	未指定
19	道尾から平岩地区の傾斜地に作られたみかん園	文化的景観	未指定
20	長目浦代地区に残る灰石積みのみかん小屋	文化的景観	未指定
21	長目の長目地区に残る灰石積みのみかん小屋	文化的景観	未指定

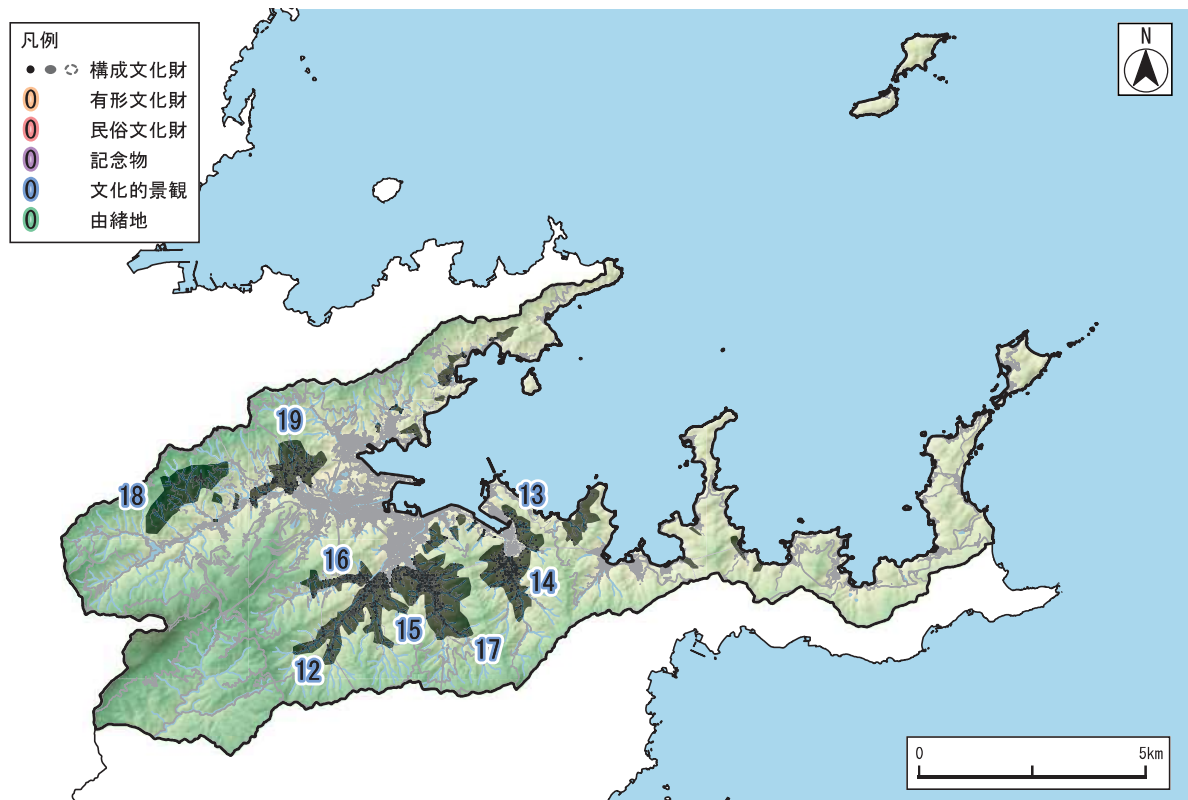


図 26 関連文化財群 2 のみかん園分布図

※塗りつぶしは、みかん園の所在地域  
 出典：農林水産課『地域計画』資料より作成

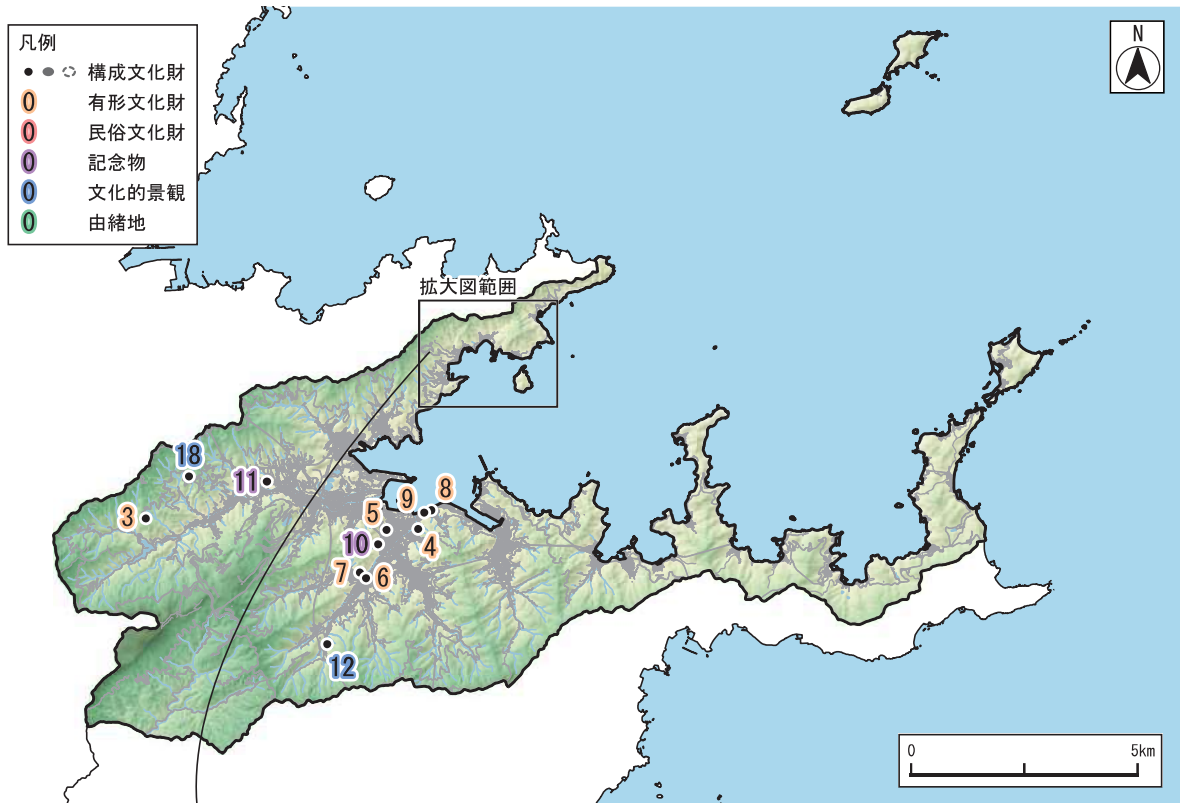


図 27 関連文化財群 2 の構成文化財分布図

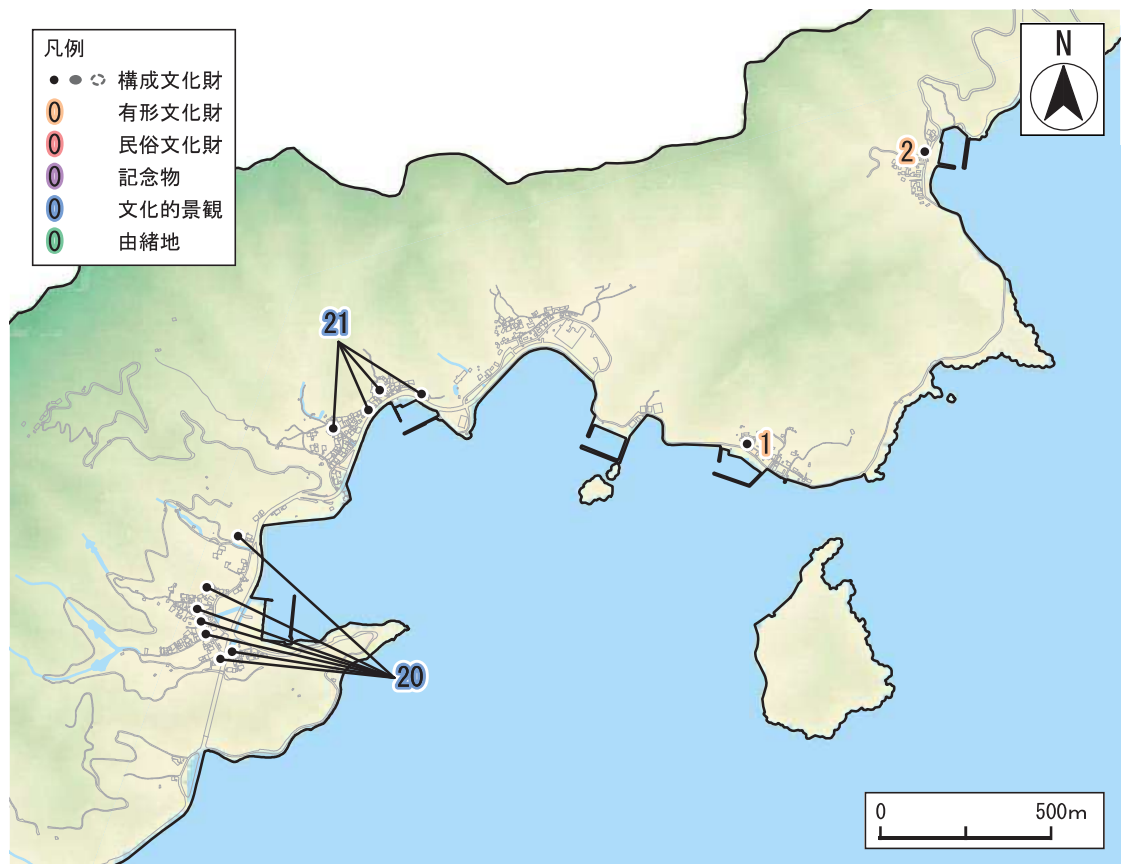


図 28 関連文化財群 2 の構成文化財分布図（拡大版）